



慶應義塾大学ビジネス・スクール

就職活動・採用活動

5

—それぞれの立場、それぞれの視点—

就職準備

10

2013年1月、佐藤 愛は、家族総出で近くの神社に初詣に来ていた。家族総出の初詣は、佐藤家では年初の恒例行事となっていた。今年は、希望する企業に就職できるように願掛けを行った。就職活動は、年が明けると同時に本格化する。景気は少しずつ回復をしていると言われているが、企業の採用意欲は必ずしも強いとは言えず、応募する側からすれば、狭き門であることは変わらない。大学の先輩たちもかなり厳しい就職活動を強いられていた。^[1] その姿を見ていたので、佐藤は、ぼんやりと就職活動は厳しいものなのだというイメージは持っていた。しかしながら、就活はまだ先の出来事という認識がどこかであって、大手チェーン店のカフェでのバイトや、高校から始めたテニスを続けようと思っ

15

入ったテニスサークルで多くの時間を過ごし、楽しい学生生活を送っていた。

就職活動スタートの手始めとして、昨年末に数社の就活支援サイトに登録をした。登録後、サイトに掲載されているエントリー募集をしている企業一覧を確認し、名前を知っている、いわゆる有名企業を中心にエントリーを行った。先輩たちのアドバイスに従って、大体100社くらいエントリーをした後に、エントリーシートを提出する企業を絞っていく予定でいる。同時に、SPI^[2] 対策の参考書を買って、筆記試験への対策を始めた。筆記で落ちる訳にはいかないため、SPI対策の勉強は、毎日少しずつやっていくこととした。こうした努力の甲斐もあってか、SPIには少しずつ慣れてきた。しかし、やっかいなのは自己PRの作成である。どのインターネットサイトや本にも、十分な自己分析を行ったうえで、自己PRを

20

25

^[1] 詳細は、巻末資料の図1と表1を参照

^[2] SPIは、リクルートマネジメントソリューションズが提供する適性検査。性格と能力の2領域を測定する。SPIはSynthetic Personality Inventory（総合適性検査）の略である。

本ケースは、慶應義塾大学大学院経営管理研究科の宗友良諭（M40）が、林洋一郎准教授の監修のもとに作成をした。社名や人名および具体的事例については特定を防ぐために変えてある部分がある。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright© 宗友良諭、林 洋一郎（2019年7月作成）